『万葉集』3 - 461

反　歌

留不得　寿尓之在者　敷細乃　家従者出而　雲隠法寸

右、新羅国尼、名曰**理願**也。遠感王徳帰化聖朝。於時寄住大納言大将軍大伴卿家、既■数紀焉。惟以天平七年乙亥、忽■運病。既趣泉界。於是大家石川命婦、依餌薬事往有間温泉而不会此喪。但、郎女独留葬送屍柩既訖。乃作此歌贈入温泉。

反　歌

留め得ぬ命にしあれば敷■の家ゆは出でて雲隠りにき

右は、新羅国の尼、名を**理願**といふ。遠く王徳に感じて聖朝に帰化す。時に大納言大将軍大伴卿の家に寄住して、既に数紀を■たり。ここに天平七年乙亥を以ちて、忽に運病に沈みて、既に泉界に趣く。ここに大家石川命婦、餌薬の事に依りて有間の温泉に往きて、この喪に会はず。ただ、郎女独り留りて屍柩を葬送すること既に訖りぬ。よりてこの歌を作りて温泉に贈り入る。